

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092100021		
法人名	一般財団法人 榛名荘		
事業所名	グループホーム榛名荘		
所在地	高崎市下室田町965-1		
自己評価作成日	令和5年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

総合ケアセンター1階にあります建物内には、看護小規模多機能事業所・訪問看護・訪問介護・居宅介護支援事業所・高齢者住宅あり、敷地内にあんしんセンター、半径1キロ以内にはデイサービスがあります。日頃より同法人事業所とは密に連携を取り、地域の方々や利用者様の情報交換を行っています。又、訪問看護とは医療連携を結んでおり、日々の健康管理や、急変時には素早く対応をして頂いています。利用者様のご家族と平日より連絡を取り合い、双方の状態把握をしているせいか、とても協力的な為、よい信頼関係が築けていると感じています。地域の方々とも顔なじみとなり、近隣の方々の情報をいただくことにより利用に繋がることも増えてきました。地域の認知症専門介護の拠点とし、多様な面で地域の方々のサポートができればと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は総合ケアセンター内1階にあり、大きな窓からは屋外を通る地域の人々の流れを見ることができ、利用者同士の話題に繋いでいる。建物内には、複合型サービス、訪問看護、居宅介護支援事業所を併設しており、敷地内には安心センターもあって、総合的な取り組み構想にある。事業所では職員による手作りの食事の提供をしており、各職員の得意料理や利用者の意見を取り入れ、日々食事を楽しめるようにしている。コロナ禍にあったここ数年にも窓越しによる面会や、外気に触れる機会を提供する取り組みを行い、今後は地域の方との会話やふれあいを計画し実施始めている。ターミナル期にあっては医療体制が整う環境にあり、実践が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解する様に職員同士話し合い、理念について確認するため、解りやすい掲示を行っている。	総合ケアセンターで掲げる理念を、申し送り時に唱和している。ホームの理念は、名札の裏に記載され携帯している。管理者は、職員に、「自分の親だったらどう思うか」「自分がしてほしいことや嫌なことは何か」を投げかけ、考える機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道路清掃を始め、祭り等の地域行事への参加、地域の中学生、高校生のボランティアなどの受け入れをし、交流を図っている。	笑顔で地域の方と交流できることを、目標にしている。地域の学生ボランティアや職場体験を受け入れたり、散歩中の人や保育園の園児と手を振り合う機会を作ったり、家族や知人の面会には大きな窓越しにインターフォン設置で会話、交流を楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支所の介護保険課の方々に、共用デイサービスや、認知症相談窓口等のPR、介護保険更新時等に、ケアサービスの取り組みなどを伝え、連携を取っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議にて報告や話し合いを行い出された意見などは議事録として記録し職員個々から目を通し参考にしてている。現在、家族の方の出席が得られておらず、小規模多機能ホームと合同で開催されている状況である為、グループホーム単独で行う様、検討している。身体拘束等の委員会の開催、定期の研修をおこない、日々のケアサービスに活かしている。日中、緊急止むを得ない事情がない限り常に鍵を開けておき、自由に出入りして頂いている。	運営推進会議のメンバーには、安心センター、保険者、区長、地域の有識者等の協力があり、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。意見の中から地域に住む高齢者情報を得る機会があり、事業所としてでできることや、支援方法などの話し合いが行われている。	面会時や電話でいただいた意見も議題にされているため、その結果なども含めて利用者家族と共有できる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支所の介護保険課の方々に、共用デイサービスや、認知症相談窓口等のPR、介護保険更新時等に、ケアサービスの取り組みなどを伝え、連携を取っている。虐待を見逃さないよう、どんな小さな出来事でも職員同士がお互いに注意し合い、虐待防止に努めている。虐待を見逃さないよう、どんな小さな出来事でも職員同士がお互いに注意し合い、虐待防止に努めている。	支所窓口にて介護保険に関する更新や事業所の情報の提供、書類作成相談などに出かけ、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の委員会の開催、定期の研修をおこない、日々のケアサービスに活かしている。日中、緊急止むを得ない事情がない限り常に鍵を開けておき、自由に出入りして頂いている。待を見逃さないよう、どんな小さな出来事でも職員同士がお互いに注意し合い、虐待防	総合ケアセンターの各部署の担当が委員になり、センターとして身体拘束廃止等の委員会がある。2～3ヶ月ごとにビデオを見て学習したり、実際の場面での活用方法が話し合われたりしている。担当委員は報告資料をまとめ、事業所で職員間の共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃さないよう、どんな小さな出来事でも職員同士がお互いに注意し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度勉強会の議題にあげ、成年後見人制度について理解するよう、話し合いの場をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は契約者に基づいて実施しており、解約時は状況に応じて家族と話し合い円滑に行われるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、又、苦情等の外部者への通報連絡先も玄関に掲示している。意見、苦情等があった時は、ミーティング等で、話し合い運営に反映させている。	面会時や電話対応時にも意見を聞く姿勢で、対応を図っており、聴取した意見は職員間で話し合い改善に努めている。窓越し面会時の会話の聞こえが悪いとの意見に対して取り組み、インターホン越しで会話ができるように解決した事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見を出してもらったり、気になっている事があったら、随時意見をだしてもらい、記録し全職員で、状況、意見を把握してもらっている。	事業所内の備品の劣化や老朽化などの情報提供は、日々受け取っている。その他、毎月のミーティングや、管理者による面接の機会があり、意見聴取としている。話し合いの結果や物品の取り扱い、申し送りノートの活用を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員が向上心を持って働けるように努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアセンター内で研修会を定期的に持ち参加しやすい様にしている。 又、都合の付く限り、外部の研修への参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交換研修や他部署への交換研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人が不安に感じている事、要望などを聞くと共に、生活歴などの情報も取り入れ、その人らしい生活を支えると共に、日常生活を送るうえで必要な支援を見つけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の関係を把握し、不安に感じていることに対し、随時相談できる環境を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の両方から話を聞き、利用者にとって必要とされる支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個性を活かし、「一人の人間として生きている」を頭の置き日常生活に必要な事柄をサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居入居時に本人と家族に確認している。利用者の個性を活かし、「一人の人間として生きている」を頭の置き日常生活に必要な事柄をサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や、知り合いの面会など特に面会時間は設けておらず、随時対応している	個々の会話によく出てくる人や場所などを、家族情報も得ながら共有した情報として受け取り支援に繋げ、他関係者とのコミュニケーション時に話題提供を行い、仲介の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を見つつ距離感を保ちながら、よい人間関係を保てるよう、心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の支払いや、顔を合わせる機会も多くある為、さりげなく近況を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人と家族に確認している。	利用者の会話や行動から、その意味を考慮することを大切にしている。入居時に家族から得る情報をもとに支援方法につながるようにと取り組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを利用し、入居前と入居後を通し、確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画作成時にアセスメントをし、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが作成する介護計画をカンファレンスで話し合い、変更点があれば修正して介護計画を作成している。	日々の提供するサービス内容をプランとして、提供内容を○×△での記録が行われている。作成には、ケア中心の計画書傾向にある。モニタリングも行われているが、利用者一人ひとりの生活課題を考察したプランの作成に努めたいと考えている。	一人ひとりの生活課題を明らかにして、利用者の自立支援に繋ぐ計画書の作成及び活用に期待したい
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、本人の言葉等をケース記録に記入し、申し送りノートやカンファレンスを活用しながら情報を共有し、ケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子、本人の言葉等をケース記録に記入し、申し送りノートやカンファレンスを活用しながら情報を共有し、ケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域の中で安心して暮らして頂けるよう、民生委員と地域の消防所に協力してもらっている。近所の中高生のボランティアが定期的に来てくださっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重している。又、個々の状態によって往診し対応している。	かかりつけ医の決定は、入居時に説明し、本人・家族の希望に沿う支援としている。利用者の状態変化の折には、変更も家族意向を取り入れている。感覚器のトラブル時は主治医に相談し、職員が受診対応をしている。内服変更等は、申し送りノートの活用により共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	センター内の訪問介護による、週1度の健康管理チェックや、変化時の情報共有を来ない、急変時には直ぐに連絡をし指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換、関係作りに訪問看護も携わり、経過の伝達や情報交換を行い適切なケアの提供やサポートを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームの現状を踏まえ家人と話し合いながら実践している。	利用者の状況から医師が判断し、ターミナル期として対応支援がある。医師や訪問看護師・家族と相談し、本人の希望に沿う入浴支援や、食べたいものを口にしてもらえよう考えながら行われている。昨年は2件の看取り支援があり、亡くなる前日まで入浴を楽しんでいただけた取り組みがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員には、グループホーム協会が行う研修に参加してもらったり、全職員を対象とした急変、事故発生時の対応訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震訓練は昼、夜を想定し年2回行い、地域の方にも参加して頂いている。	訓練は、総合ケアセンター全体で行っている。年1回は、消防署や地域の方の参加を得て避難や消火器使用訓練を実施している。地震シミュレーションにより各部署ごとに避難場所があり、行政指導に基づいてマニュアル作成がされている。備蓄は、3～5日分がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを損なわないよう、声掛け対応に注意している。	入居時にプライバシー保護のチェック表を使い、個々の傾向を把握している。トイレやおむつ・パッドなどの言葉は使わないで排せつ誘導をする他、異性職員の入浴介助の場合は利用者の同意を得て行うなど、誇りを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞き、その人らしく生活ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れを基本とし、その中で個々のその日の状況に合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ちぐはぐな服装をしている時にはさりげなく誘導し、行為を促す。朝のケア時にはホールに出てこられる前に鏡を見て頂き、身なりを整えてもらうよう声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを聞きながら献立を考え、手作りおやつなどを一緒に作ったり、食事の下ごしらえ、味見などをさせていただいている。個々の状態に合わせてできる事は職員と一緒にしている。	1週間の献立を、担当の職員が決めている。食材は近くのスーパーに依頼し、届けてもらっている。調理時の皮むきや味見に参加してもらい、手作り調理の提供がある。おやつづくりや季節行事、誕生日会のメニューにも参加してもらい、楽しめるよう支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1週間の献立を考え、定期的に体重チェックを行いながら、食事の量や水分量を十分に摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後誘導、声掛けにて歯ブラシをして頂き、その人に合わせ介助にて、うがい義歯を洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインを観察して声掛けや誘導、着脱介護などを行っている。	温度板を作成して、職員が記録した排せつパターンを読み取り、話し合いで時間誘導の介護支援が行われている。	本人の持てる力を検討し、自立支援に繋ぐ排泄介護支援を検討され、介護実践に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取り、野菜類を積極的に食事に取り入れている。又、医師の指示のもと下剤の使用で対応する場合がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は時間を決めずにゆっくりと入浴できるように支援している。又、入浴日以外でも清潔支援が必要とされるときは、対応している。	利用者の希望する時間帯(夜間)にも、入れる方の入浴利用ができる支援が行われている。季節を感じる入浴剤(ゆず、ももの葉)を活用して楽しんでもらい、介護支援では対話をしながら関係支援を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や夜間の睡眠の状況を勤務職員で共有して、必要時は昼寝を促したり、休憩と取っていただいたりしている。どうしても不眠状態が続く時は主治医と連携を取り安定剤の使用を検討する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行っており、必要な情報はカンファレンスや申し送りノートを使って職員が共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で個々の能力に応じた家事支援を行うと共に、利用者同士が会話を楽しくめるように支援したり、植物の世話などを通して充実感を味わえるように支援したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるように支援している。(近所のかかりつけ医師への受信、お墓参り、お買い物など)	コロナ禍にあつては、外出機会の制限や地域の行事が中止となり外出が減っていた。ベランダや庭を活用して外気浴をできるよう支援していた。近所の神社で初詣、お墓参り、衣料品の買い物は希望に沿う支援としていた。次年度は、ドライブや花見を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方よりお小遣いをお預かりして、本人の希望に合わせて使えるようにしている。 (高額になる時には家族に確認している)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけたたり、手紙を出したり受け取ったりできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じながら居心地よく過ごせるように、換気や明るさ、室温などに気を配っている。	季節に合う飾りつけを、利用者と職員で作成している。イベントなどに活用しているホールにはカラオケが設置され、大きな窓があり共用スペースとして交流の場としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを二つ並列に並べ、気が合う同士、同じ空間で過ごせるよう配慮すると共に、一人になりたそうな時には、声掛けをし自室に誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の希望も配慮しているので、必ずしも本人の好みにはなっていないが、できるだけ落ち着いた写真やカレンダーなどを掲示するなどの工夫をしている。	掃除は、基本毎日職員が行っている。ベットは備品となっており、今までの物から電動ベッドに変更しての設置準備が進められている。居心地よく過ごしてもらえよう、写真やカレンダー掲示は好みに合わせて行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	プライドを損なわないよう、声掛け対応に注意している。		